

令和7年度 第2回さいたま市民大学運営委員会 議事録

1 開催日時

令和7年10月27日（月） 午後2時から午後3時25分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：10名〉

- ① 山中 涼子 委員長
- ② 秋本 創 副委員長
- ③ 小澤 千佳子 委員
- ④ 川又 伸彦 委員
- ⑤ 黒金 英明 委員
- ⑥ 佐藤 重房 委員
- ⑦ 佐藤 美子 委員
- ⑧ 多田 宏美 委員
- ⑨ 富岡 泰夫 委員
- ⑩ 水町 浩之 委員

〈事務局：12名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 杉本 達洋
- ② 副館長 大城 冬樹
- ③ 事業・企画係主査 蜂谷 香織
- ④ 事業・企画係主事 小暮 裕貴
- ⑤ 参与 吉田 治士
- ⑥ 社会教育指導員 渡邊 京子
- ⑦ 社会教育指導員 永井 紀美子

生涯学習部内関連施設

- ⑧ 青少年宇宙科学館 加藤 優志
- ⑨ うらわ美術館 松原 知子
- ⑩ 大宮西部図書館 赤木 みさ
- ⑪ 大宮西部図書館 松尾 紀子
- ⑫ 博物館 瀧本 美佳

4 欠席者名

（委員：1名）

① 関根 広美 委員

5 報告事項

（1）前回の議事録について

6 協議事項

（1）令和8年度さいたま市民大学各コース（案）について ····· 資料1・2

- ① 教養コース～ビジネススキルコース
- ② 市民企画コース～パソコンコース
- ③ 科学コース～歴史コース

7 その他

（1）運営委員会等のスケジュールについて（予定）

8 公開・非公開の別

公開

9 傍聴者の数

0名

10 報告内容

（1）前回の議事録について、事務局から説明。

11 協議内容

（1）令和8年度さいたま市民大学各コース（案）について協議。

- ① 事務局より、教養Ⅰ・Ⅱ、心理、さいたまの魅力、子どもの交通、おとなの交通、メディア、ビジネススキルの各コースについて説明をした。

以下、質疑等の内容

【教養Ⅰ・Ⅱコース】

秋本副委員長	教養Ⅰ・Ⅱのような内容の講座を公の施設が実施することはとても意味があると思う。平日に参加しにくいという方もいると思うので、いずれ配信でも観られるようになるとよい。
水町委員	教養Ⅰだが、広いテーマを扱うことになるので、講師個人の考えもあると思うが、誰の論をベースにした議論を紹介するのか確認していただきたい。個人的には、公共性の喪失とともに、生きることの難しさや資本主義の行きすぎとの絡みで話していただけるとよいと思う。教

	養Ⅱでは、フェイクニュースにだまされないために、フェイクニュースに関する実情を紹介した上で、それでも騙されてしまう認知のクセの問題を扱ってもらうとよい。認知のクセも幅広い内容なので、情報社会を読み解くということであれば、それに絞った形で何か紹介いただくのもよいのではないか。
事務局	教養Ⅰはタイムリーな課題であり、様々な講師がいて、選び方によって方向性が違ってくる可能性がある。できるだけ偏りのない講師を選びたい。教養Ⅱと重なる部分があるので、教養ⅠとⅡの切り分けを行いたい。
小澤委員	教養Ⅰコースは、興味はあってもなかなか参加しにくい方もいるだろう。広い内容を全3回でどこまで考えていくのか、どこまで表現していくのか、この現代社会の課題を乗り越えられるのか。また、もう少し市民にわかりやすいキャッチーな言葉を入れてもいいのではないか。
事務局	テーマが難しく、キャッチーな言葉選びがとても難しい。公共性や排外主義などいろいろな言葉を並べても、なかなか身近に感じる方がいない。人が集まるようなわかりやすい表現や内容にしていきたい。
事務局	教養Ⅰ・Ⅱともに心理学で、それほど高くない金額で引き受けてくれる講師など、委員の方々がご存じであれば教えてほしい。

【子どもの交通コース】

佐藤重房委員	JALのメインテナンスセンターは遠方だが現地集合か。また、こちらから行く際の保険はどうなっているか。
事務局	現地集合、現地解散となる。東京に限らず、さいたま市で開催する際にも自宅から現地までの移動はあり、これらと同様に保険は必要に応じてご自身で対応いただくという形になる。

【メディカルコース】

水町委員	「脳疾患と心臓病の正しい知識で命を守る」というテーマだが、その疾患について不安がある場合や検査で問題が出ているのであれば、医療の中で進めていただくことになる。こういう講義の中で具体的なことを知るのが怖いので参加しないという人もいるだろう。テーマの表現に工夫が必要。個人的には様々なワクチンについて、それを受けるべきか否かといった内容の方が健康な人には参加しやすいかもしれないと思う。
事務局	次回も自治医科大学に依頼することを想定している。自治医大は市民公開講座を不定期で行っているので、これから内容を詰めていきたい。これまでの応募者の声をできる限り反映したい。
黒金委員	この時間帯にやるので、対象者が固まってしまい、このようなテーマになるのだと思う。時期的に暑さが厳しく、熱中症対策のような幅広

	いテーマを取り入れてもいいのではないか。
事務局	自治医大でも熱中症をもっと知ろうというテーマで講義をしており、検討の余地はあると考えている。

【ビジネススキルコース】

富岡委員	とてもいいコースだと思うが、全1回で十分だろうか。必要であればもう少し回数を増やしてもいいのではないか。オンラインでやるのであれば、いろいろな方が視聴できるように動画配信の期間を長めにするとよい。
事務局	まだ講師が決定している段階ではないので、講師と打ち合わせしていく中で、内容に応じて必要な回数を決めたい。また、話せる方が多い分野、少ない分野、ビジネススキルや生成AI等のように進展・変化が著しく、企画したときと実際に講義を行うときでは内容が変わっているような分野もあるので、講師選定の際に考慮したい。
水町委員	オンラインで講座を開くときのノウハウを高めて、オンラインでのグループでの話し合いなどもできるとよい。
富岡委員	オンラインだと、一方的な講師の説明が主になってしまうと思うが、例えば、Zoomのブレイクアウトルームの機能などを使い、参加者同士の対話も取り入れるとよい。

② 事務局より、市民企画、ICTスキル、プログラミング、パソコンの各コースについて説明をした。

以下、質疑等の内容

【市民企画コース】

小澤委員	「おとなジグソー」という言葉をあまり聞いたことがなく、コース案に書いてあるテーマや概要だけだと何をするのかイメージが湧かないと思う。グループ学習をしながら学び直していく部分をイメージ付けた方が、参加する人が多いのではないか。また、自分の固定観念から出て、新しく気づきが生まれるかもと思えるようなキャッチーなフレーズがあったらいいと思う。
事務局	ご指摘の通り、この「ジグソー法」というのは聞いただけではなかなか伝わりにくい部分もあると思う。プレゼンテーションでは、「ジグソー法を広めていきたい」という団体の意志もあったので、講師と調整しながら、市民の方が参加したいと思うようなキャッチコピー、概要やテーマをお示しできるよう進めていく。
山中委員長	団体のプレゼンでは、開催日時が7月及び2月とあったが、期間が開いて4回というのは、受講する方も大変なのではないか。開催日程について、講師と詰めていただければと思う。
事務局	市民大学では基本的に全回出席を条件としているので、市民の方の参

	加のしやすさに配慮し、講師の方と調整をしたい。
山中委員長	団体のプレゼンテーションで、副委員長から、講座内容にある4作品のうち2つは著作権が切れてないのではないか、という指摘があったのでこの点も確認をしてほしい。
事務局	著作権についても確認していく。
山中委員長	団体は、「ジグソー」自体をアピールしたいという意向だったので、多くの市民の方が「なるほど」と思うような講義をしていただければと思う。

【ICT スキルコース】

小澤委員	Canva はいろいろなことができるので、子育て世代の方などから PTA や高校でもよく使われていると聞く。とても需要が高いものなので開催が1回で20名しか受講できないのはもったいない。オンラインでも講座ができるのではないか。
事務局	今年も85名の応募があり人気が高い講座であるので、複数回開催も検討していく。講座形式については、対面だとすぐに質問することができて分からぬ部分をその場で解決できるといった受講生の意見もあることから、Canva についてはオンラインではなく対面開催を考えている。
川又委員	今は小学校からパソコンを使って授業をしているので、小学生はプログラミングだけでなく Canva にも興味があるのではないか。市民大学の1つのねらいとして年齢層の問題もあると思うので、小学生だけでなく中学生も入れた年代を対象にした Canva を増やすのはどうか。土曜日9時～16時など、子供や若年層が通えるような時間帯での開催や、講座数を2回にする事も含め、今後の課題として検討いただければと思う。
事務局	今年度の Canva では、小学6年生が1名受講した。

【プログラミングコース】

川又委員	抽選になると思うので拡充していくとよい。例えば、案では8月の平日午前中だが、夏休みの午前中は塾に行っているので午後なら参加したい小学生もいると思うので、開催時間の工夫も必要である。コース案のプログラミングコースは対象が小学生だが、上の学年層を対象にしたアドバンス的なものもよい。
事務局	スクラッチは何年も続けていて、若干マンネリ化しているところもある。今年度まで夏休み午前中開催を基本としているが、応募が少なく、倍率が1.15倍～1.25倍である。いただいたご意見を参考に、時間帯の変更や、スクラッチから Canva へのシフトなども検討してまいりたい。

- ③ 青少年宇宙科学館、うらわ美術館、大宮西部図書館、博物館より、科学、美術、文学、歴史の各コースについて説明をした。

以下、質疑等の内容

【科学コース】

富岡委員	タイトルは「ロボットで学ぼう 簡単プログラミング」となっているが、プログラミングの面白さを学ぶのか、それともロボットの制御を学ぶのか、どちらが主になるか。個人的にはプログラミングはあくまで手段なので、制御のコンセプトを学ぶ方が大切だと思うが。
青少年宇宙科学館	タイトルのように、プログラミングの先に「目指せロボコン」というものがある。来年度の講座の時期に石川県で同じような競技の国際大会があり、それに興味があればエントリーできるようにといふことも視野に入れている。講師としては、プログラミングの基本を学んだ後、それを基にロボットを動かす楽しさを知り、さらに大会、その先の国際大会で活躍してくれる小・中学生を育成したいという思いがあると思う。プログラミングからロボットへという段階的な考え方をお持ちだと思う。
黒金委員	科学コースはものづくり人材の育成につながるコースでありがたい。ただ、1回の人数が10名というのはもったいない。
青少年宇宙科学館	ロボットのプログラミングは科学館主催の教室授業でも行っているが、市民大学で企画しているものは、それを発展させた高度なものとなっている。ロボットの数、講師の指導が行き届く人数を考慮し、10名としている。ものづくり人材の育成は、科学館の事業で窓口を広げて今後も関わっていきたいと考えている。

【美術コース】

黒金委員	美術に取り組むきっかけになるような初歩的なものも今後検討いただけるとよい。
美術館	美術館ではアーティストを講師にお迎えしたワークショップなどの主催事業があり、美術に取り組むきっかけづくりを意識したものとなっている。市民大学では予算に限りがあるので、美術館の主催事業と補完し合いながら豊かなコース作りができればと考えている。
佐藤美子委員	そのときに開催されている展覧会の内容を掘り下げていくということではなく、それをきっかけとしてもう少し広く地域のことを学んでみようということか。
美術館	展覧会の内容を深めていくことよりも、展覧会で語りきれない、作品を通してだけではわかりきれないところを講座で補完して内容を充実していきたい。市民大学ということで、受講者の多くは市民の方なので、より地域の人々に知りたい内容を深めるというイメージで企画している。

【文学コース】

黒金委員	俳句を作る番組もあり、俳句には奥深さを感じるので、今後は俳句への取り組みもあるとよい。時代に応じた内容にしていいのでは。
図書館	受講生が作った俳句を指導者に添削してもらえると、より俳句を作ったり、読み解いたりするおもしろさがわかつてもらえると思う。講義形式ではなく、実際の授業形式のようになっていくと思うが、来年、詩でそれを行い、アンケート結果などを踏まえて俳句や他の分野も模索してゆきたい。
多田委員	文学Ⅱの定員17名だが、これは会議室の定員が18名で、講師を含めず17名ということだったが、講師としては、少人数の対面形式なので17名が適当ということなのか、それとも部屋自体がなかったということか。
図書館	図書館で用意できる部屋が、視聴覚ホール（舞台あり、椅子固定の広い部屋）か、会議室の二択である。講師は、できれば学校の授業くらいで、30名くらいなら一人で目が届く人数と考えておられた。しかし、そのような部屋が用意できないので、講師に相談し、少なすぎず受講生の会話も弾むであろう17名とし、会議室での開催ということになった。
多田委員	人数設定が少しもったいない気もする。

以下、全体質疑等の内容

川又委員	ビジネススキルのように夜の時間帯であれば、より広い年齢層、昼間仕事をしている人なども受けられる。土日開催も検討すべき課題である。
富岡委員	コース内容の具体化や講師の選び方について、どういう方法で進めているか教えてほしい。
事務局	まずはその分野に造詣のある方を探して直接あたっていくのが基本的な方法である。著名な方に講師になっていただきたいが、講師料の関係で折り合わないことがある。ホームページを見て幅広くやられている方を探したりしている。また、オンライン講座は非常に設定が難しく、例えば今年度の生成AIコースはオンライン100名で設定しうまくはいったが、一般の講座は有料、オンラインは無料となるなど様々な課題があった。夜間コースの充実等要望が多いことも承知しているので、検討していきたい。
黒金委員	市民大学として1つぐらいは講師の謝金が高くてたくさん的人が集まるようなコースもあっていいのではないか。
事務局	かつては特別コース用の予算を持っていたが、現在予算が厳しい。今年6月くらいから、さいたま市みんなのアプリでもお知らせするよう

	にしたところ、応募者が増え、応募が定員の2倍、3倍になっているものもある。だが、看板になるような講座で市民大学を知ってもらい、レギュラーコースにも繋げていくことをご指摘いただいたので参考にさせていただきたい。
佐藤美子委員	さいたま市では、市民大学以外で様々な生涯学習に関する講座やワークショップ等を開催していると思うが、それと市民大学との建て付けはどのような構造になっているのか全体像が知りたい。例えば、市民大学に美術コースや文学コースはあるのに、なぜ舞台芸術のコースはないのか。ミュージカルの楽しみ方、演劇の見方・仕組・制作、コンテンポラリーダンスはどのようなものかなど興味深いものがあると思うが、市民大学にそのようなコースがないのは他でやっているからなのか。
事務局	市民大学の市民企画コース以外は教育委員会で企画案を出している。科学、美術、文学、歴史コースは生涯学習施設との連携ということで事業を組んでいる。おっしゃるように文化の部分が弱いと考えている。今後、教養Ⅱ等を文化のコースにすることも可能なので、委員の皆様からご意見をいただき検討していただきたい。
山中委員長	対象の年齢層を広げていくことを考えるのは、最も重要であると思う。市民大学という趣旨から、大人向けコースとのバランスを見ながら、子ども向けコースをどのように入れていくかは今まで論点になっていた。子ども向けコースであるけれども成人との連続性を探っていくことが重要だと思う。テーマについては、市民の方にわかりやすくキャッチャーなものをご検討いただきたい。また、市民大学といろいろな施設との連携はとても意味がある。すでにそれぞれの施設で行っていることやこれから実施していくことに市民大学がどうつながることができるのかを検討することは重要であり、コース内容も補完し合うことで充実を図ることは、今後の論点となり得るのではないか。

1 2 その他

令和7年度第3回運営委員会のスケジュール等について事務局から説明。

1 3 閉会